

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領 2008 に準拠して作成

鼻粘膜反応によるアレルギーの検査薬

処方せん医薬品^{注)}

アレルギーディスク「トリイ」ハウスダスト
アレルギーディスク「トリイ」ブタクサ花粉

注) 注意－医師等の処方せんにより使用すること

剤形	粘膜炎適用外用剤
製剤の規制区分	処方せん医薬品
規格・含量	1ディスク中 ハウスダスト：たん白窒素 2～5 μ g、総窒素 7～12 μ g を含む ブタクサ花粉：たん白窒素 2～5 μ g、総窒素 7～12 μ g を含む
一般名	該当しない
製造販売承認年月日 薬価基準収載年月日 発売年月日	製造販売承認年月日：1972年 3月 24日 薬価基準収載年月日：1972年 11月 1日 発売年月日：1972年 4月 10日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：鳥居薬品株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	鳥居薬品株式会社 お客様相談室 TEL：0120-316-834 FAX：03-3231-6890 医療関係者向けホームページ http://www.torii.co.jp （医療関係者の皆様へ）

本IFは2005年6月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。
 最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ
<http://www.info.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において新たな IF 記載要領が策定された。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[IF の作成]

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2008」（以下、「IF 記載要領 2008」と略す）により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

- ①「IF記載要領 2008」は、平成 21 年 4 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領 2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領 2008」においては、従来の主に MR による紙媒体での提供に替え、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則で、医療機関での IT 環境によっては必要に応じて MR に印刷物での提供を依頼してもよいこととした。

電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2008 年 9 月)

目次

I. 概要に関する項目	1	10. 製剤中の有効成分の確認試験法	5
1. 開発の経緯	1	11. 製剤中の有効成分の定量法	5
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	12. 力価	5
II. 名称に関する項目	2	13. 混入する可能性のある夾雑物	5
1. 販売名	2	14. 治療上注意が必要な容器に関する情報	5
2. 一般名	2	15. 刺激性	6
3. 構造式又は示性式	2	16. その他	6
4. 分子式及び分子量	2	V. 治療に関する項目	7
5. 化学名(命名法)	2	1. 効能又は効果	7
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	2. 用法及び用量	7
7. CAS登録番号	2	3. 臨床成績	7
III. 有効成分に関する項目	3	VI. 薬効薬理に関する項目	9
1. 物理化学的性質	3	1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	9
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	2. 薬理作用	9
3. 有効成分の確認試験法	3	VII. 薬物動態に関する項目	10
4. 有効成分の定量法	3	1. 血中濃度の推移・測定法	10
IV. 製剤に関する項目	4	2. 薬物速度論的パラメータ	10
1. 剤形	4	3. 吸収	10
2. 製剤の組成	4	4. 分布	11
3. 用時溶解して使用する製剤の調製法	4	5. 代謝	11
4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4	6. 排泄	11
5. 製剤の各種条件下における安定性	5	7. 透析等による除去率	11
6. 溶解後の安定性	5	VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	12
7. 他剤との配合変化(物理化学的変化)	5	1. 警告内容とその理由	12
8. 溶出性	5	2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)	12
9. 生物学的試験法	5	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	12

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	12	11. 薬価基準収載年月日	17
5. 慎重投与内容とその理由	12	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	17
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	12	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	17
7. 相互作用	12	14. 再審査期間	17
8. 副作用	13	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	17
9. 高齢者への投与	13	16. 各種コード	17
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	13	17. 保険給付上の注意	17
11. 小児等への投与	13	XI. 文献	18
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	13	1. 引用文献	18
13. 過量投与	13	2. その他の参考文献	18
14. 適用上の注意	13	XII. 参考資料	19
15. その他の注意	14	1. 主な外国での発売状況	19
16. その他	14	2. 海外における臨床支援情報	19
IX. 非臨床試験に関する項目	15	XIII. 備考	20
1. 薬理試験	15	その他の関連資料	20
2. 毒性試験	15		
X. 管理的事項に関する項目	16		
1. 規制区分	16		
2. 有効期間又は使用期限	16		
3. 貯法・保存条件	16		
4. 薬剤取扱い上の注意点	16		
5. 承認条件等	16		
6. 包装	16		
7. 容器の材質	16		
8. 同一成分・同効薬	16		
9. 国際誕生年月日	16		
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	17		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

アレルギー性鼻炎及び気管支喘息の *in vivo* における原因抗原を確認するために、様々な誘発試験が行われている。その中でも鼻粘膜誘発試験は比較的行いやすい確認法で、濃度の高いエキスの鼻内噴霧、或いは粉末抗原を粘膜に附着させたりするが、これを実用的に改良したものが、抗原エキスをろ紙片に吸着させたアレルギーディスクである。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

抗原を経鼻粘膜的に局所で反応させるため、ろ紙に浸み込ませてある。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

アレルゲンディスク「トリイ」ハウスダスト
アレルゲンディスク「トリイ」ブタクサ花粉

(2) 洋名

該当しない

(3) 名称の由来

該当しない

2. 一般名

(1) 和名（命名法）

該当しない

(2) 洋名（命名法）

該当しない

(3) ステム

該当しない

3. 構造式又は示性式

該当しない

4. 分子式及び分子量

該当しない

5. 化学名（命名法）

該当しない

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

該当しない

7. CAS 登録番号

該当しない

III. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

該当しない

(2) 溶解性

該当しない

(3) 吸湿性

該当しない

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

該当しない

(5) 酸塩基解離定数

該当しない

(6) 分配係数

該当しない

(7) その他の主な示性値

該当しない

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

該当資料なし

4. 有効成分の定量法

該当資料なし

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 投与経路

鼻粘膜

(2) 剤形の区別、規格及び性状

ろ紙： かつ色～淡かつ色の直径 3mm の円形のろ紙である。

(3) 製剤の物性

該当しない

(4) 識別コード

該当しない

(5) pH、浸透圧比、粘度、比重、安定な pH 域等

該当しない

(6) 無菌の有無

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

販 売 名	アレルギーディスク「トリイ」ハウスダスト
成 分	ハウスダスト（室内塵）よりえたアレルギーをろ紙に浸み込ませて乾燥したもので、1 ディスク中たん白窒素 2～5 μ g、総窒素 7～12 μ g を含む。

販 売 名	アレルギーディスク「トリイ」ブタクサ花粉
成 分	ブタクサ花粉よりえたアレルギーをろ紙に浸み込ませて乾燥したもので、1 ディスク中たん白窒素 2～5 μ g、総窒素 7～12 μ g を含む。

(2) 添加物

ろ紙（支持体）

(3) 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

3. 用時溶解して使用する製剤の調製法

該当しない

4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

5. 製剤の各種条件下における安定性¹⁾

2～8℃で12ヶ月間保存において、外観に異常を認めず、総窒素量、たん白窒素量において若干低下傾向が認められるが、その変化はわずかであった。室温及び37℃に保存では、外観ならびに総窒素量において2～8℃保存群との差が認められないが、たん白窒素の低下は2～8℃保存群よりやや大きい傾向が見られた。

以上の成績よりアレルゲンディスクは2～8℃にては12ヶ月は安定に保存し得ることが確認された。

6. 溶解後の安定性

該当しない

7. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当しない

8. 溶出性

該当資料なし

9. 生物学的試験法

該当しない

10. 製剤中の有効成分の確認試験法

たん白の確認（ニンヒドリン反応）

11. 製剤中の有効成分の定量法

一枚当たり、たん白窒素量2～5μg、総窒素7～12μg

12. 力価

該当しない

13. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

14. 治療上注意が必要な容器に関する情報

該当しない

15. 刺激性

該当資料なし

16. その他

該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

診 断

アレルギー性鼻炎および気管支喘息のアレルゲンの確認

2. 用法及び用量

診 断

本品 1 個を下鼻甲介粘膜に付け、1～5 分後下記の症状の内 2 つ以上認められたものを陽性とする。
なお対照ディスクで陽性の場合、日を変えて再検査し、陰性となったとき、本検査を行う。

症 状

(1)鼻内搔痒感 (2)くしゃみ (3)粘膜蒼白化 (4)水性鼻漏 (5)粘膜腫脹

3. 臨床成績

(1)臨床データパッケージ（2009 年 4 月以降承認品目）

該当しない

(2)臨床効果

誘発反応と皮内反応の比較²⁾

第 1 表 皮内反応と誘発反応（ハウスダスト）

		皮 内 反 応		
		(-) (±)	(+) (++)	計
デ イ ス ク 反 応	(-) (±)	97	55	152
	(+)	37	116	153
計		134	171	305

第 2 表 皮内反応と誘発反応（ブタクサ花粉）

		皮 内 反 応		
		(-) (±)	(+) (++)	計
デ イ ス ク 反 応	(-) (±)	21	35	56
	(+)	6	46	52
計		27	81	108

1) ハウスダスト

皮内反応（－）（±）のディスク陰性率は 97/134（72.4%）、皮内反応（＋）（++）のディスク陽性率は 116/171（67.8%）であって、皮内反応（＋）（±）の大部分は誘発ディスク陰性、皮内反応（＋）（++）の大部分はディスク陽性である。両反応は推計学的にも危険率 1% でよく一致する。

2) ブタクサ花粉

皮内反応（－）（±）でディスク（－）（±）は 21/27（77.8%）、皮内反応（＋）（++）でディスク（＋）は 46/81（56.8%）であった。推計学的にも両反応は危険率 1% でよく一致する。

3) コントロールディスク陽性率

対照ディスクによる鼻反応陽性者は 9/183（4.9%）であって、この陽性者も日をかえることにより陰性になり、検査が可能であった。

(3) 臨床薬理試験：忍容性試験

該当資料なし

(4) 探索的試験：用量反応探索試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当しない

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

アレルギー（抗原）

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

1) 作用部位

下鼻甲介粘膜

2) 作用機序（誘発の原理）

下鼻甲介粘膜に抗原ディスクを置くことにより、局所的に抗原・抗体反応を誘発させ当該抗原に感作されているか診断する。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

〔「V. 3. (2) 臨床効果」の項〕参照

(3) 作用発現時間・持続時間

該当しない

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

該当資料なし

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

該当資料なし

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当しない

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) コンパートメントモデル

該当しない

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

該当しない

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

該当しない

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

(1) 検査数日前よりステロイド剤、抗ヒスタミン剤などの投与を中止すること。

(解説)

ステロイド剤、抗アレルギー薬の投与により鼻粘膜におけるアレルギー反応が抑制され、正しく判定できない可能性がある。

(2) 検査中は鼻をすすったり、鼻をかまないように注意させること。

(解説)

下鼻甲介粘膜に付けた本剤が取れてしまう可能性がある。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当資料なし

(2) 併用注意とその理由

該当資料なし

8. 副作用

(1) 副作用の概要

該当資料なし

(2) 重大な副作用と初期症状

該当資料なし

(3) その他の副作用

該当資料なし

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

該当資料なし

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので検査に際しては注意すること。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

ヒスタミンは子宮筋収縮作用を有することが知られているので、妊婦における検査に際しては注意すること。

11. 小児等への投与

該当資料なし

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

該当資料なし

15. その他の注意

該当しない

16. その他

該当しない

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験（「VI.薬効薬理に関する項目」参照）

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

参考³⁾：スクラッチエキス

各原料を 1:10 の割合で抽出した 50%グリセリン食塩溶液をマウスに 10mL/kg、モルモットに 2.5mL/kg 腹腔内単回投与し、7日間観察にて異常を認めなかった。

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤：アレルギーディスク「トリイ」ハウスダスト、アレルギーディスク「トリイ」ブタクサ花粉
処方せん医薬品^{注)}

注) 注意－医師等の処方せんにより使用すること

有効成分：該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：1年

3. 貯法・保存条件

2～8℃保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱いについて

該当しない

(2) 薬剤交付時の注意（患者等に留意すべき必須事項等）

該当しない

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

アレルギーディスク「トリイ」ハウスダスト：1瓶 20個入（対照ディスク 1瓶 20個入添付）

アレルギーディスク「トリイ」ブタクサ花粉：1瓶 20個入（対照ディスク 1瓶 20個入添付）

7. 容器の材質

容 器：ガラス瓶

キャップ：ポリプロピレン

8. 同一成分・同効薬

なし

9. 国際誕生年月日

国内開発

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

販 売 名	承 認 年 月 日	承 認 番 号
アレルゲンディスク「トリイ」 ハウスダスト	1972年3月24日	(47AM) 587
アレルゲンディスク「トリイ」 ブタクサ花粉	1972年3月24日	(47AM) 588

11. 薬価基準収載年月日

販 売 名	薬価収載年月日	発 売 年 月
アレルゲンディスク「トリイ」 ハウスダスト	1972年11月1日	1972年4月
アレルゲンディスク「トリイ」 ブタクサ花粉	1972年11月1日	1972年4月

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

該当しない

16. 各種コード

販売名	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算 処理コード	HOT(9)番号
アレルゲンディスク「トリイ」 ハウスダスト	7290700X1029	667250001	180400301
アレルゲンディスク「トリイ」 ブタクサ花粉	7290701X1023	667250002	180401001

17. 保険給付上の注意

該当しない

XI. 文献

1. 引用文献

- 1) 山口一孝 他 : アレルゲンディスク「トリイ」の安定性
鳥居薬品社内資料
- 2) 奥田 稔 他 : 鼻アレルギー診断用誘発ディスクの臨床検討
耳鼻咽喉科 43(3)225-230, 1971
- 3) 鳥居薬品社内資料 : アレルゲンスクラッチエキスの毒性試験 (社内資料)

2. その他の参考文献

- 1) 奥田 稔 他 : アレルギー性鼻炎における皮膚反応の意義と誘発試験
鼻喉 37(1)31-38, 1965
- 2) 宮下久夫 他 : 鼻アレルギーに関する最近の研究 (第2法)
- 鼻内誘発反応の臨床的意義 -
日耳鼻 76(11)1360-1367, 1972
- 3) 横田 明 : 鼻粘膜誘発試験
アレルギーの臨床 9(5)362-365, 1989

XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当しない

2. 海外における臨床支援情報

該当しない

XIII. 備考

その他の関連資料

該当資料なし

